

財団法人 8020 推進財団

平成 21 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書

1. 事業名 : 「磨いている」から「磨けている」ことを、子供にどう伝えるか？

～視覚教材を用いて幼稚園教諭や保護者をまきこむ～

2. 申請者名 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団

(理事長 金田博夫)

3. 実施組織 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団

(協力団体) 高槻市教育委員会

社団法人高槻市歯科医師会

4. 事業の概要 :

既に95%の4、5歳児が少なくとも1日1回は歯を磨く習慣を持っている。このことから、幼稚園や保育園における集団歯磨き指導も、従来の習慣づけ(磨いている)から効率的に歯垢を除去する歯磨きスキルの習得(磨けている)へと工夫する必要があると考えた。その工夫の1つとして歯磨き DVD を試作し、この効果について従来の集団指導法や絵カード法と比較した。

5. 事業の内容 :

約50名の幼児が在籍する3つの幼稚園において、①紙芝居と顎模型を用いた集団歯磨き指導②絵カードを用いた指導③歯磨き DVD を用いた指導を行った。指導前後における幼児の歯の汚れの程度と歯磨きスキルの習得について評価し、3つの方法の効果を比較した。この結果、いずれの方法にも効果が認められたが、DVD を用いた方法が最も優れていた。

6. 実施後の評価 :

以前から広く実施されてきた歯科衛生士が紙芝居と顎模型を用いて行う集団指導法は、臨場感があり歯磨きの動きもよくわかるが、歯科衛生士自身が説明に集中しなければならないので幼児一人一人に対して適切な個人指導を行うまでにはなかなか至らない。幼児自身が絵カードを繰り返しながら学習できる指導法については、反復学習ができ、また歯科衛生士にとって個々の幼児に目が届く点ではよいが、絵カードが静止画であるため幼児にとってプラッシングの動きがわかりづらい。これに対し DVD による指導はこの2つの方法の長所をあわせ持っている。

また、絵カードや DVD などの視覚支援は家庭でも用いることができ、子供の歯磨きスキルの習得に保護者の参加を要請できる利点もあると考えられる。